



平成 29 年 3 月 1 日 現在	総世帯数	1,851 世帯
総人口	4,838 人	
男	2,348 人	
女	2,490 人	

退任のごあいさつ

この3月で任期を終えられた神林の役員の方々に、2年間を振り返っていただきまし

- ① 退任のご挨拶
- ② 大変だったこと、印象に残っていること
- ③ 今後の課題等
- ④ 次期役員への期待

上條 栄 神林地区連合会長



① 身に余る大任をお受けしてしまい大変心配しましたが、大勢の役員の皆様、地域づくりセンター職員の皆様、地区の皆様方にご協力を頂き任期を全うできましたことに感謝申し上げます。

② 長年にわたり開催されてきました運動会の歴史に幕が下ろされました。何年も可否が検討されてきましたが地

区住民の皆様方へのアンケート結果を踏まえ終了となりました。運動会が地区の皆様方の絆づくりには重要な役割を担っていた事は事実であり多くの方が認めるところであります。

③ 少子高齢化が進む中で住民の皆様方が安心して暮らせる地域づくりが必要だと思います。運動会に代わるイベントで多くの年代の人に参加して頂ける内容を企画する事が重要ですが大変だと思います。

④ 神林みんなの幸せ計画推進委員会を発展させ推進会議を立ち上げました。今後は各団体の課題の共有化・整理と解決に向けた支援策を検討するというものです。役員の皆様が連携して地区の問題解決にあたっていただきますようお願いいたします。

田口和利 神林公民館運営委員長

① 運営委員長を3月末で退任することになりました。地区



感謝申し上げます。

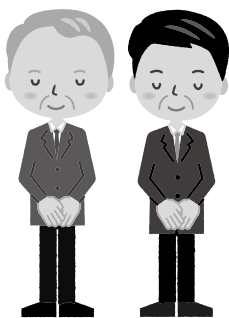
② 長年の課題であった神林区運動会が本年度を最後に中止となり、神林の多くの人たちが集まれる行事が無くなる事が残念です。

③ 運動会に代わる行事を計画することになり、年齢に係らず自由参加によるスポーツフェスティバルを検討中です。大勢の皆様が気軽に参加していただき、住民同士の絆を深め楽しんでいただけたらと思います。

④ 神林の伝統を引き継いで頂くとともに、誰もが安全で安心して暮らせる神林区を目指し、地区の皆様と力をあわせ地域づくりに取り組んで頂けることを願っております。

最後に神林の発展と皆様方のご健勝をご祈念し退任の挨拶とさせていただきます。

の皆様、役員の皆様のおかけで無事に務めることができ



キーワードはなに?

本紙神林版の記事内にキーワードの文字が散りばめられています。見つけて言葉にしてください。わかった方は神林公民館に備え付けの用紙に必要事項を記入してご応募ください。正解者の中から毎回抽選で**10名に500円分の図書カード**をプレゼント！締切は**4月28日(金)**、当選発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。多数のご応募お待ちしております！

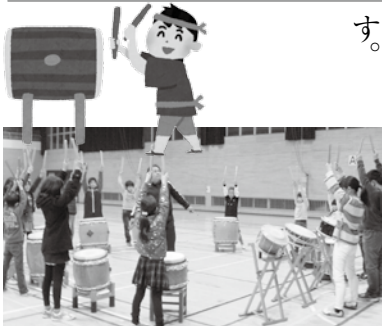
【前回の答え】 **とりどし** 【今回のキーワード】 ○○○○○○

【寄稿】
古典文学⑤
徒然草(つれづれ草)をちよつとのぞいてみる。
(約六九〇年以前、鴨長明作)「友とする。」

○わろき者、病なく身強き人、酒を好む人、虚言(うそ)を言う人、欲深き人
○よき友、物くるる人。医師。知恵ある人。」

ほんの一部を書き出しました。今の世の中にも通じるようなものがありますね。(福村)

シリーズ
神林のキッズサークル 04
子供太鼓連
◆もうすぐ20年を迎える神林子供太鼓連は、現在菅野小



「神林のお祭りを盛り上げたい方」を募集中！
毎週日曜日19時体育館まで！

学生の19名で構成されています。毎週日曜日18時から1時間練習します。◆9月の神林神社例大祭には宵祭に太鼓と御神楽舞いを奉納し、本祭りには山車と共に公民館を回り演奏します。神林文化祭JA収穫祭等に向けて「祭り太鼓」「太鼓囃子」「三宅」を練習しています。◆「やっさ、やっさ、やっさ、そうれ、そうれ」と口ずさむ可愛らしい声とお腹の奥まで響く力強い太鼓の音は感動的です。股割の構えや腕の上げ方、演奏のテンポが速く、ところの指導を受け、上達していく姿がうかがえました。◆神林の伝統としてこの太鼓連も長く継承されていくことを望みます。

神林地区球技大会

2月26日 神林球技大会が開催されました。

ソフトバレーボール・ラジボール卓球の2種目に分かれ熱戦が繰り広げられました。ソフトバレーは、寺家V梶海渡、町神VS川東で、決勝トーナメントが行われました。

決勝は、寺家と町神で行われ寺家が優勝しました。卓球は、トーナメントを下神と川東が勝ち上がり、下神が優勝しました。

◆ソフトバレーボール

- 1位 寺家
 - 2位 町神
 - 3位 川東
- #### ◆ラジボール卓球
- 1位 下神
 - 2位 川東
 - 3位 梶海渡



安心して暮らせる地域づくり

神林地区の福祉を考える集い

3月2日、あかはね内科・神経内科医院の院長唐木千穂さん(下神)が「住み慣れた地域で最期まで生きるといふこと」と題して講演しました。

最期を自宅で迎えることの意義について、半数以上の方が自宅で最期を迎えたいと望んでいてそれを叶えるということのほか、「自宅」には痛みを和らげたり、元氣を取り戻したりする力があること、看取りに際して家族が受ける心の傷も自宅の方が緩和されやすいことを指摘しました。

一方で実際の調査では、死亡する場所は医療機関などが8割近くに上り、自宅で亡くなるのは1割ほどにとどまることも示され、理想と現実には大きな差があり、その一つに在宅での終末期医療の体制



福祉を考える集い

が充分に整っていないことが挙げられるというところで

す。

そのような中で唐木さん

は、患者が自宅で家族と穏やかに最期まで過ごせるように支えたいと、開院当時から訪問診療にも力を入れていて、講演の後半では心に残った在宅死患者の症例を紹介しました。医療・福祉サービスを適宜利用することで、自宅で最期を迎え、家族も「いい最期だったね」と思うことができ

ることを伝え、「患者さんやご家族が穏やかに最期を迎えられるように全力で支えるので、自宅で最期を迎えるという望みを諦めないでほしい」と話しました。

症例の中には、地域に住む友人・知人が話しに來たり、家事や庭仕事を手伝ったりしたこと、患者が安心して最期を迎えられたケースもあり、地域の人のつながりが在宅で最期を迎えることと重要な関りがあることに気づかされました。

子育てママの防災講座

公民館主催で4回にわたって行われ、その内容が冊子にまとめられました。乳幼児を持つ母親の目線で防災につ

誰しもが安心して暮らしたいと願うもの。最近の神林での取り組みを2つご紹介します。



「子育てママの防災講座」を一部紹介

て考える事を目的に開講されました。

『災害時に子連れは弱者になつてしまします。そんな時に手を差し伸べてくれるのは、地域の方です。ですから、私達は普段から地域とつながっています。お互いに顔を知っていくという事が大切だと感じました。』

『私は災害の少ない松本で育つたので、防災に関する意識は薄かったのですが、防災講座に参加してみても、子供を守っていく母として知っておいた方が良い情報が沢山あり、とても参考になりました。』

また、講座ではつい後回しになりがちな母親の心のケアが、子供の安心感につながる事を訴えています。

災害は、いつ、どこで、どのように起こるか分かりません。日頃の心構えと準備の大切さを再確認した講座でした。

鎖川

◆世界でもトップクラスの長寿国になった日本ではあるが、高齢化が確実に進んでいることもまた事実である。◆施設に入居している人たちは別として、自宅で面倒を見ている人たちも大勢いることと思う。

◆実は今、親一人子一人で94歳になる父の介護をしている。幸い認知症ではないところが救いではあるが、着替えや食事、下の世話など多岐に渡っている。車椅子や歩行器の助けを借りないと歩くことすら出来ない。転倒して骨折でもすれば寝たきりになってしまうので目が離せない、いつも気が張っている。したがって自分自身の行動もかなり制限されてしまう。週2日、デイサービスに行っている時間が唯一の心が安らぐ時である。◆私とて決して若くはないので、色々な面で大変であるし心配でもある。◆在宅で介護されている皆さん、お互いに頑張っていきましょう。

